

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度病害虫発生予察情報について

のことについて、発生予報第9号（12月）を発表したので送付します。

鹿児島県病害虫防除所

〒899-3401
南さつま市金峰町大野 2200
TEL:099-245-1081（代表）
099-245-1157（直通）
FAX:099-245-1149



ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujosh/index.html>

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp

農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

- | | |
|--------------|---|
| 1. 使用する人の安全 | 使用者自身の健康管理、安全使用 |
| 2. 作物に対する安全 | 適期、適正防除で薬害防止 |
| 3. 農産物に対する安全 | 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守) |
| 4. 環境に対する安全 | 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川、湖沼、海等への汚染防止)
(養蚕、養蜂等への危被害防止) |
| 5. 保管管理の安全 | 保管管理の徹底で事故防止 |

農薬ラベルを確認しましょう

農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

令和7年度 病害虫発生予報 第9号

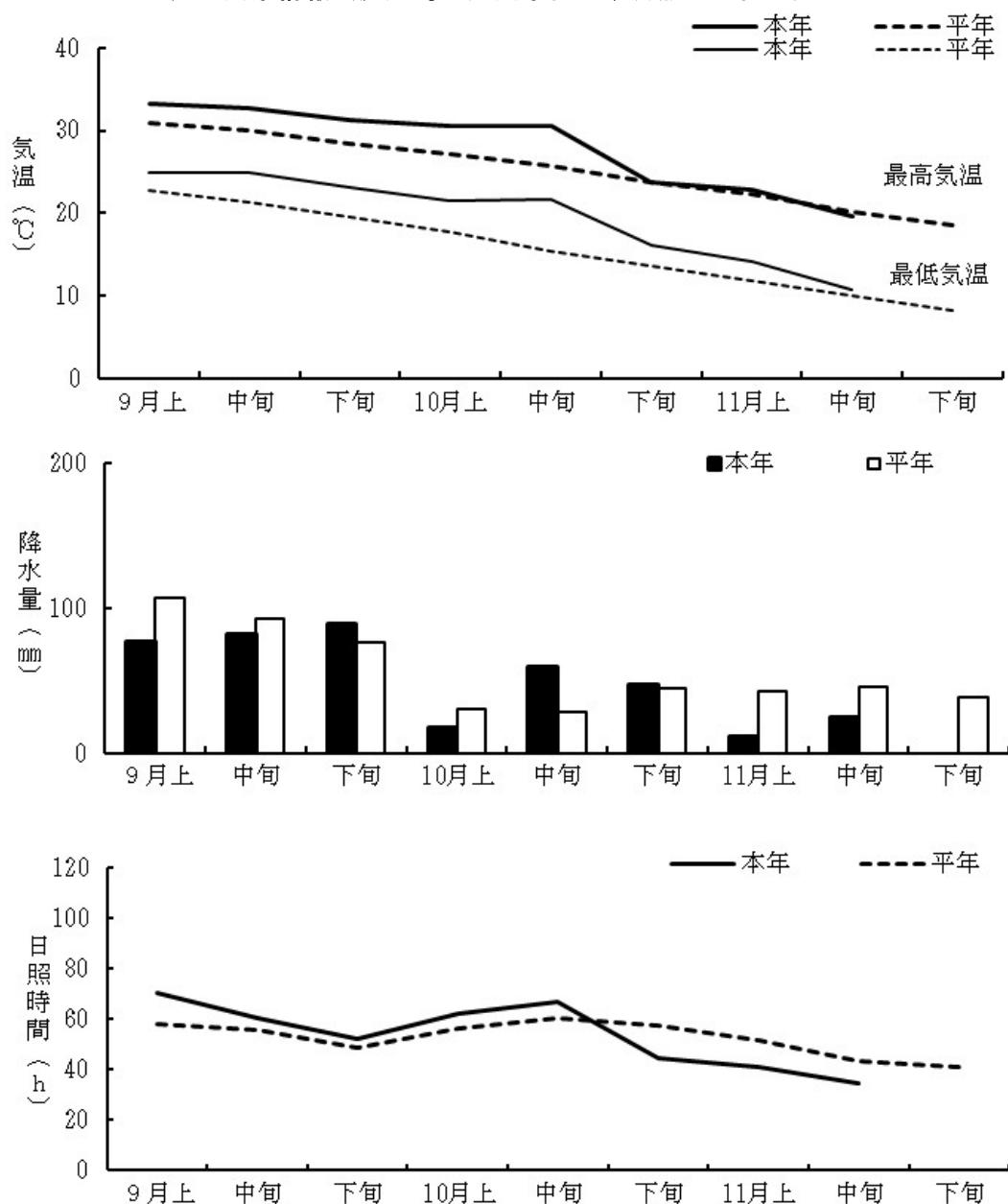
令和7年11月28日
鹿児島県病害虫防除所

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（11月29日～12月28日） 令和7年11月27日 鹿児島地方気象台 発表

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部 奄美地方	40 30	40 40	20 30	九州南部の気温は平年並 か低い、奄美の気温は平年 並で、九州南部、奄美共に 降水量は少なく、日照時間 は多い見込み。
降水量	九州南部 奄美地方	70 60	20 30	10 10	
日照時間	九州南部 奄美地方	10 20	20 30	70 50	

II. 9～11月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



【 病 害 虫 発 生 予 報 の 概 要 】

作物	病害虫名	発生量	
		現況	予報
野菜	キュウリ	アザミウマ類	並
		コナジラミ類	並
	トマト	黄化葉巻病	多
		コナジラミ類	多
	ピーマン	アザミウマ類	多
		タバココナジラミ	多
	イチゴ	うどんこ病	並
		アザミウマ類	並
		ハダニ類	やや少
花き	キャベツ	菌核病	並
	エンドウ類	褐紋病・褐斑病	並
		うどんこ病	多
		アザミウマ類	並
	キク	ハダニ類（県本土・施設）	やや少
		〃（奄美地域・露地）	やや多
		アザミウマ類（県本土・施設）	やや少
		〃（奄美地域・露地）	やや少

【病害虫発生予報】

I. 普通作物

防除に関する今月の留意事項



1. 水稻

(1) スクミリンゴガイ（令和7年度技術情報第22号、令和7年11月26日付参照）

発生ほ場では、水田と水路内での越冬個体を減らすために、以下の防除対策を行う。

ア 冬期にトラクターでほ場を耕耘（走行速度を遅く、ロータリーの回転は速くする）して、土壤中の貝を寒風にさらすとともに破碎する。

イ 水路内での越冬場所をなくし、越冬個体を寒風にさらすため、水路の泥上げを地域全体で行う。

2. サツマイモ

(1) サツマイモ基腐病

次作の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

<種いも>（健全種いもの確保と消毒）

ア 発病ほ場から収穫したいもを種いもに利用すると、貯蔵中に発病するため、必ず健全ほ場から種いもを確保する。

イ 貯蔵中の発病リスクを減らすため、貯蔵前に流水で水洗・選別して、なり首と尾部を切除する。その上で、トップジンM水和剤で消毒し、十分に風乾させる。蒸熱処理については農研機構のマニュアルに従い適切に行う。なお、蒸熱処理直後の種いもの表皮は柔らかいので、傷をつけないよう、丁寧に取り扱う。風乾後は、適正な温度と湿度を確保できる定温貯蔵庫等で貯蔵する。切除に使用したハサミ等は、こまめに消毒する（火炎滅菌、または丁寧な洗浄と拭き取り）。

ウ 罹病した種いもが同一コンテナ内に混入すると、貯蔵中に健全な種いもへ伝染するため、定期的に種いもの状況を観察し、疑わしい種いもは必ず除去する。

エ 貯蔵前に種いも消毒を行っていない場合は、伏せ込む前に必ず種いも消毒を行う。また、病害発生いもや傷の多いいもなどの除去を徹底し、健全な種いものみを土壤消毒した苗床に伏せ込む。

<育苗床>（苗床の準備と消毒）

ア 残さをほ場外に持ち出し、適切に処分する。

イ 残さ持ち出し後、複数回耕耘する。

ウ 土壤消毒は、適正な土壤水分の条件下で、殺菌効果のある剤（バスアミド等）で実施し、処理後直ちに必ずビニール等で被覆する。また、消毒後は、ガス抜きを十分に行う。

<本 ぼ>（収穫後の残さ対策の徹底）

ア 屑いもや諸梗等の残さは、収穫を終えたら速やかにすき込みを行う。

イ すき込んだ後も、定期的（1回／月程度）に耕耘して分解を促す。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県（https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf）, 農研機構（https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotato04.pdf）をご覧ください。



鹿児島県

サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル（第4版）
令和6年3月改訂



農研機構

サツマイモ基腐病の
発生態と防除対策
(令和4年度版)

II. 野菜

1. キュウリ

(1) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率 0% (平年 3%) : 並
(ウ) 防除上注意すべき事項
(ア) 黄化えそ病 (MYSV) を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、青色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。

(イ) 黄化えそ病の発病株は伝染源となる。ほ場の見回りを行い、発病株を認めたなら早急に抜き取り、処分する。
(ウ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
(エ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。

(2) コナジラミ類

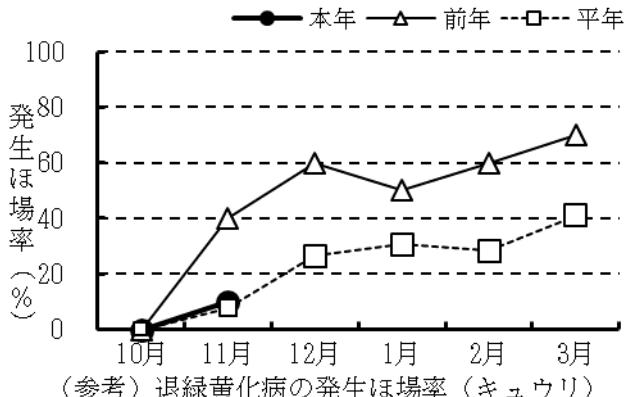
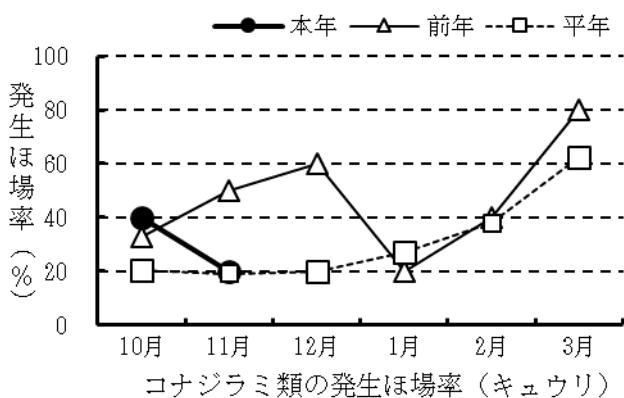
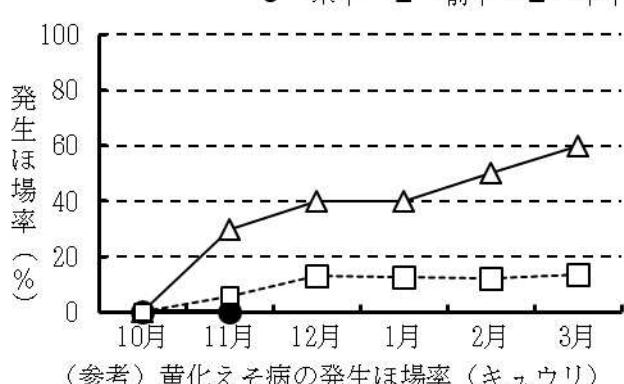
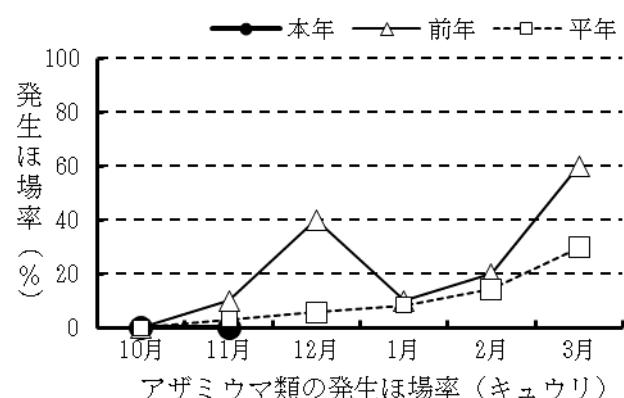
ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率 20% (平年 19%) : 並
(ウ) 防除上注意すべき事項
(ア) 退緑黄化病 (CCYV) を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるので、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。

(イ) 退緑黄化病の発病株は伝染源となる。ほ場の見回りを行い、発病株を認めたなら早急に抜き取り、処分する。
(ウ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
(エ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



2. トマト

(1) 黄化葉巻病

ア 予報内容

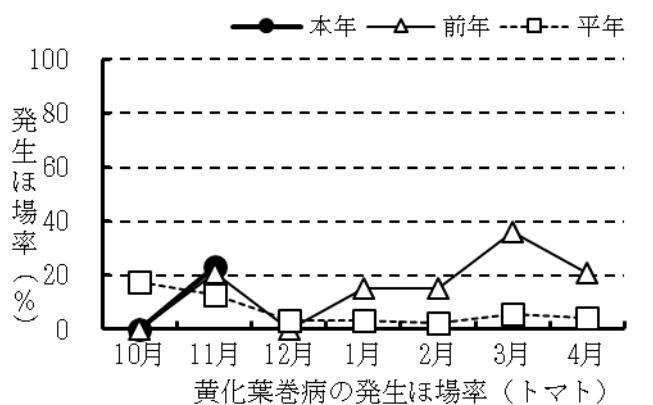
- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率 29% (平年 12%) : 高い
発生程度の高いほ場を認めた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 黄化葉巻病 (T Y L C V) はコナジラミ類によって媒介されるため、コナジラミ類の防除を徹底する。
(イ) 発病株は伝染源となるので、ほ場の見回りを行い、発病株を認めたら早急に抜き取り、処分する。



(2) コナジラミ類

ア 予報内容

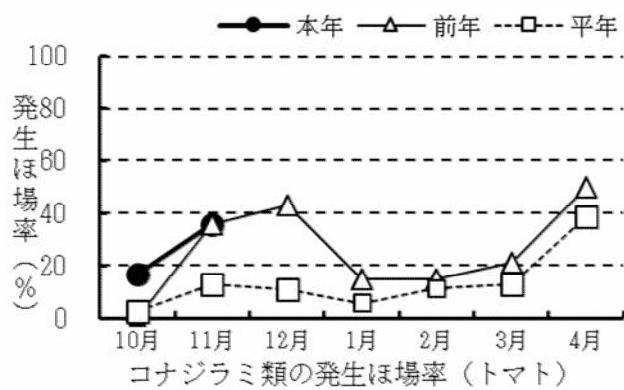
- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率 36% (平年 13%) : 高い
発生程度の高いほ場を認めた (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 黄色粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
(イ) 天敵を導入しているほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。
(エ) 農薬によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する (令和6年度技術情報第25号、令和6年12月26日付参照)。



3. ピーマン

(1) アザミウマ類

ア 予報内容

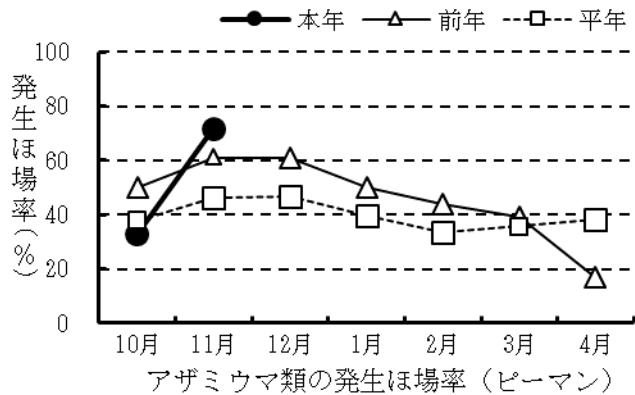
- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 対象作型 促成栽培
(ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率 72% (平年 46%)
：高い

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部 (サイド等) 等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
(イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するため、散布は丁寧に行う。
(ウ) 天敵を放飼したほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
(エ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



(2) タバココナジラミ

ア 予報内容

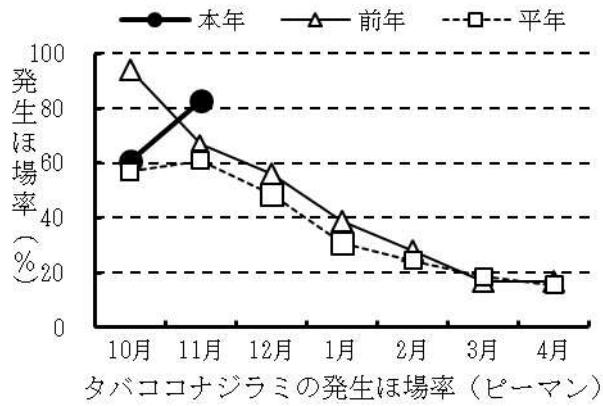
- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：多
発生ほ場率 83% (平年 61%)
：高い

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多発するとすす病を発生させるため、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。
(イ) 天敵を放飼したほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。



4. イチゴ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 18% (平年 14%) : 並

ウ 防除上注意すべき事項

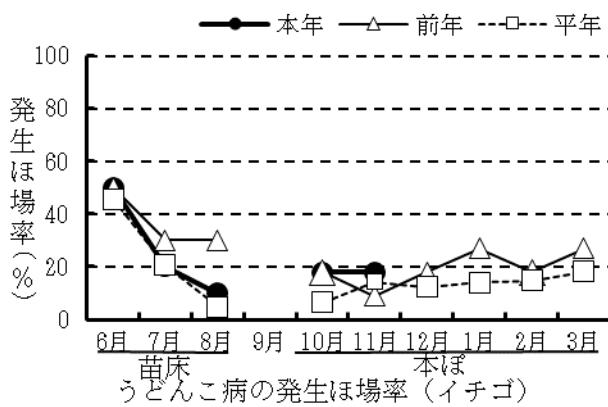
(ア) 防除は予防に重点を置く。農薬は、葉裏に十分かかるよう散布する。

(イ) 新葉に発生しやすいので、葉裏をよく観察し、早期発見と初期防除に努める。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布を行う。

(エ) 発病果や発病葉、古葉は除去し、施設から持ち出して処分する。

(オ) 窒素肥料の過多や葉が混み合うと多発しやすいので、適切な栽培管理を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 36% (平年 24%) : 並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 青色粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。

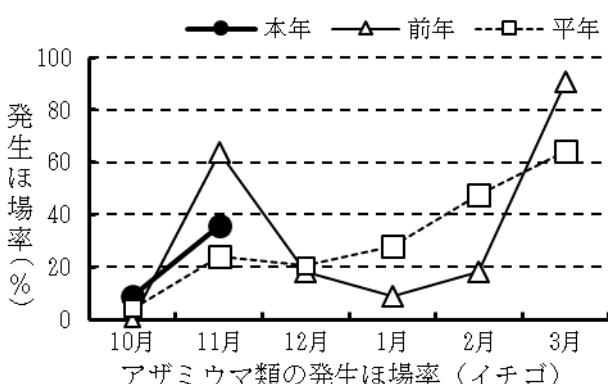
(イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するため、散布は丁寧に行う。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。

(エ) ハダニ類の天敵を放飼したほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(オ) 農薬によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する（令和7年度技術情報第11号、令和7年7月31日付参照）。

(カ) 農薬によっては、ミツバチに影響があるので、選定に注意する。



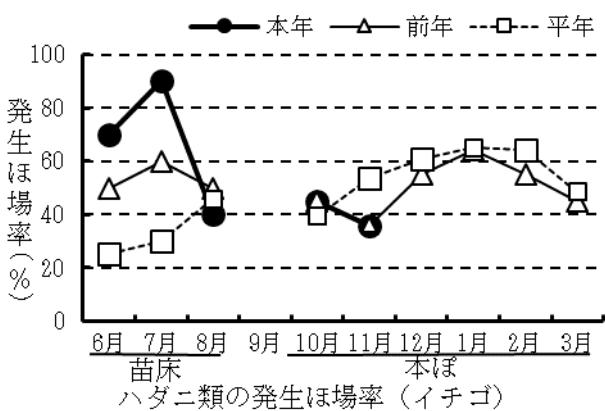
(3) ハダニ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
 (イ) 発生量 やや少
 イ 予報の根拠
 (ア) 調査結果 発生量：やや少
 発生ほ場率 36% (平年 54%)
 : やや低い

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 天敵を放飼したほ場では、天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
 (イ) 農薬の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
 (ウ) 作用性の異なる農薬 (RAC コード参照) のローテーション散布に努める。
 (エ) 農薬によっては感受性が低下しているので、散布後は防除効果を確認する。
 (オ) 農薬によっては、ミツバチに影響があるので、選定に注意する。



5. キャベツ

(1) 菌核病

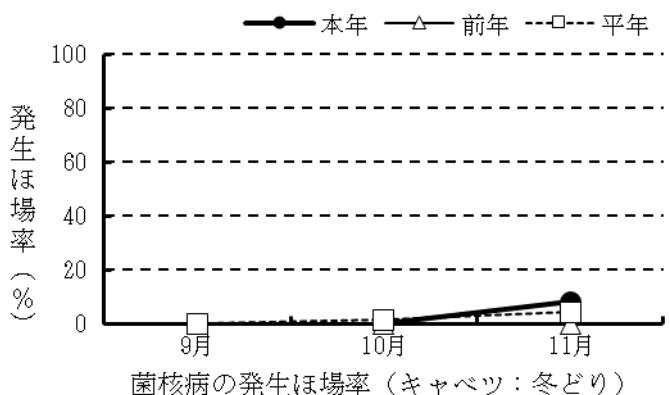
ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
 (イ) 対象作型 冬どり
 (ウ) 発生量 並
 イ 予報の根拠
 (ア) 調査結果 発生量：並
 発生ほ場率 8% (平年 4%)
 : やや高い

発生程度は低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 病原菌は地際部から感染しやすいので、農薬は株元へ十分かかるように散布する。
 (イ) 発病部位から健全部へ菌糸によって被害が広がるので、発病葉は見つけ次第取り除く。
 (ウ) 発病株は次作の伝染源となるので、菌核を生じないうちにほ場外に持ち出し処分する。
 (エ) 収穫終了後の残さは適正に処分する。特に発病残さをほ場に残さない。



6. エンドウ類

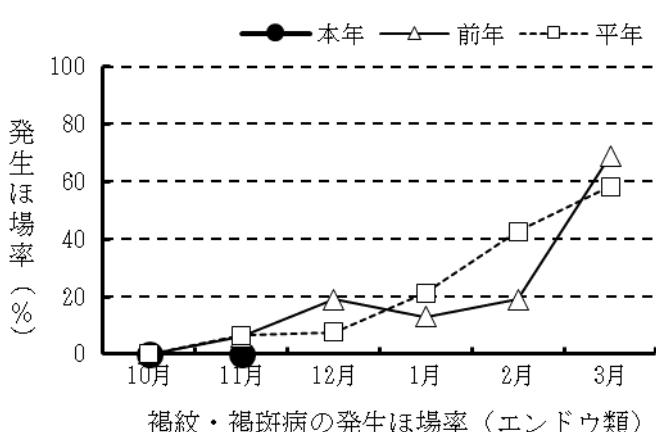
(1) 褐紋病・褐斑病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
 (イ) 対象作型 冬・春どり
 (ウ) 発生量 並
 イ 予報の根拠
 (ア) 調査結果 発生量：並
 発生ほ場率 0% (平年 7%) : 並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 排水不良のほ場では多発しやすいので、排水対策に努める。



(イ) 多発するとごま症の発生につながるため、未発生ほ場では予防散布に努め、既に発生しているほ場では早めに防除を行う。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。

(2) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 対象作型 冬・春どり

(ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率 19%（平年 10%）

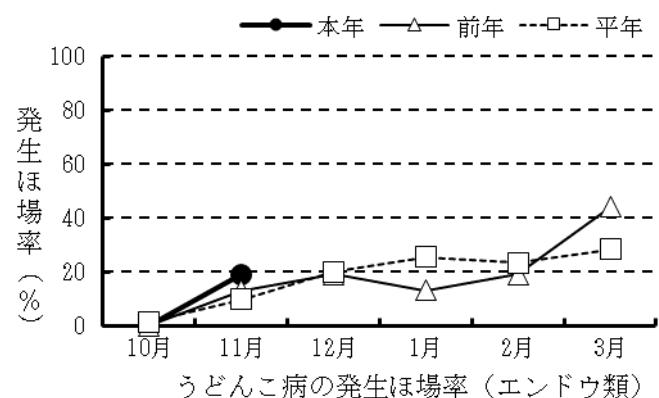
：やや高い

発生程度の高いほ場を認めた（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 着花～収穫初期に下葉から発病し発生初期は汚白色の小斑点から白色の菌叢を生じる。多発するとごま症の発生につながるため、未発生ほ場では予防散布に努め、既に発生しているほ場では早めに防除を行う。

(イ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 対象作型 冬・春どり

(ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 44%（平年 49%）：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 主な発生種はハナアザミウマで、

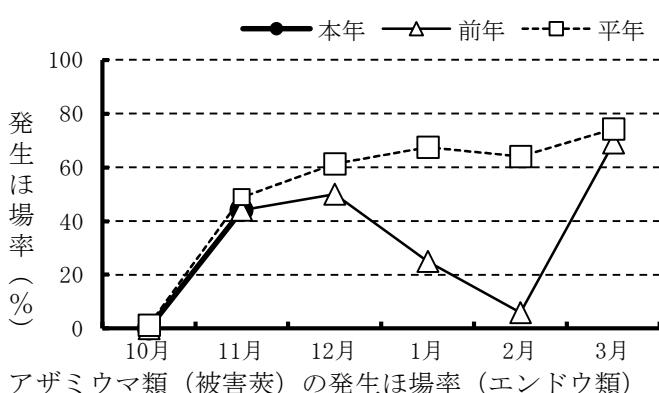
若莢に産卵し、「白ぶくれ莢」となるので、若莢の被害や粘着トラップへの誘殺等から発生状況を把握し、早期防除に努める。

(イ) 花弁の奥に生息するため、丁寧な農薬散布に努める。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びほ場周辺の除草に努める。

(オ) 防虫ネットや障壁植物により侵入を防ぐ。



防除に関する今月の留意事項



1. トマトキバガ (令和7年度技術情報第20号, 令和7年11月4日付参照)

- (1) トマトなどのほ場周辺に設置した11月のフェロモントラップ調査において、誘殺数は前月より増加しており、本県の調査開始以来、最も多くなっている。本虫による栽培作物での発生および食害は今のところ認められていないが、他県ではトマトなどで茎葉や果実への食害が認められている。
- (2) 防除対策として、施設栽培ではハウスの開口部や換気部を1mm以下のお合のネットで被覆し、ハウス内への侵入防止に努める。
- (3) 国内ではトマト（ミニトマトも含む）、ナスおよびイヌホオズキで食害が確認されている。他に海外ではピーマン、バレイショ、タバコなどのナス科植物、マメ科のインゲンマメも寄主植物とされている。トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに、食害部分の腐敗が生じ、果実品質が著しく低下する。
- (4) 本種のトマトなどの発生が疑われる場合は、病害虫防除所（099-245-1157）に連絡する。

表1 フェロモントラップによる誘殺状況（令和5～7年）

調査品目	地点	令和5年			令和6年					令和7年							
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	10月	11月 ¹⁾	
トマト	霧島市	No. 1	-	5	2	0	2	2	6	14	2	0	0	0	0	0	18
		No. 2	-	1	1	0	0	1	2	8	2	0	0	0	0	27	13
ピーマン	出水市	No. 1 ²⁾	5	19	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	158	233
	志布志市	No. 1	-	1	0	0	1	0	3	23	3	1	0	0	1	27	46
バレイショ	東串良町	No. 2	-	0	0	0	0	0	0	13	1	0	0	0	0	33	30
	長島町	No. 1	-	1	1	1	0	0	0	10	5	0	0	0	0	15	49
		計	5	33	8	2	4	3	16	77	13	1	1	0	18	262	440

注1) 調査月の前月中旬にトラップを設置し、設置から約1カ月後に回収し誘殺数を調査

例：11月の調査結果は、10月中旬～11月中旬に誘殺された虫数の総数

注2) 令和5年10月～12月の調査は、病理昆虫研究室によるトラップ調査

III. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土（施設） やや少

奄美地域（露地） やや多

イ 予報の根拠

<県本土（施設）>

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 20%（平年 34%）

：やや低い

<奄美地域（露地）>

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率 20%（平年 2%）

：高い

発生程度が低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等で

スポット状に発生する場合が多いので、

ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 農薬は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。

(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土（施設） やや少

奄美地域（露地） やや少

イ 予報の根拠

<県本土（施設）>

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 30%（平年 37%）

：やや低い

<奄美地域（露地）>

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 20%（平年 52%）

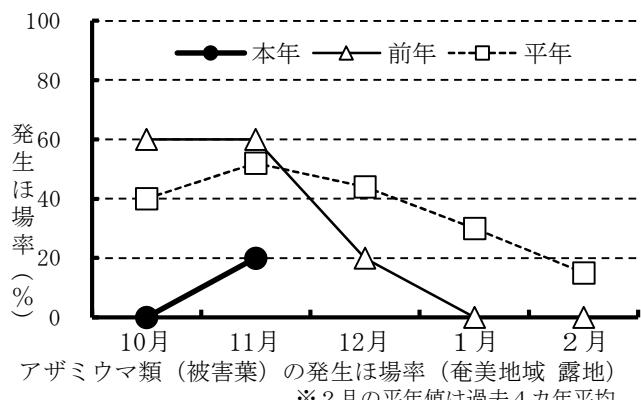
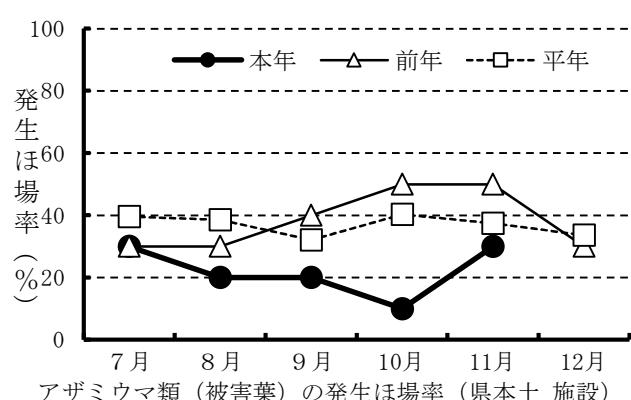
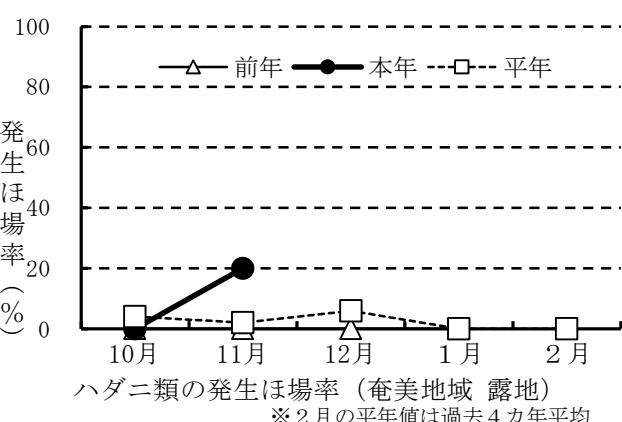
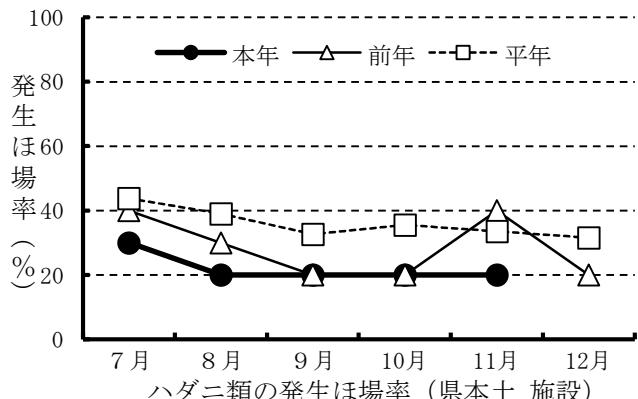
：やや低い

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類の発生動向を把握す

るには、出入口や開口部付近での青色

粘着シートの設置が有効である。



- (イ) クロゲハナアザミウマの発生が認められる場合、本種は主に中下位葉に寄生しているため、農薬は中下位葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RAC コード参照）のローテーション散布を行う。
- (エ) アザミウマ類はキクえそ病（T S W V），キク茎えそ病（C S N V）を媒介するので、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。

IV. 果樹

防除に関する今月の留意事項

【カンキツ】

1. カイガラムシ類の防除対策

- (1) 越冬した成虫・幼虫が翌年の発生源になるため、発生園では越冬時期に冬季用マシン油乳剤（95%）をハダニ類等の防除も兼ねて2月までに必ず散布する。
- (2) 樹冠の頂部や裾部、枝葉の混み合った部分に発生が多いので、農薬は十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 防除にあたっては、農薬の使用回数や使用時期を遵守し、飛散には十分、注意する。

2. 貯蔵病害（青かび病、緑かび病）

- 収穫時の気温が高く、降雨が多いと腐敗果が発生しやすい。
- (1) ベルクートフロアブルを使用する場合は、ベンレート水和剤と混用散布することで防除効果が高まる。
 - (2) 貯蔵を要する普通温州や中晩柑類は収穫前に必ず防除する。農薬は収穫予定日を想定し、収穫前日数に注意するなど、使用基準を厳守する。
 - (3) 収穫時には果実に傷をつけないように手袋を使用し、果梗部の二度切りは丁寧に行う。
 - (4) 収穫袋から果実をコンテナに移す際は、打ち傷ができないようにコンテナの底面にシートを敷くなど、果実を丁寧に扱う。
 - (5) 腐敗果の発生を防止する貯蔵管理
 - ア 収穫した果実は常温予措により果実重量の3～5%の水分を除き、貯蔵する。
 - イ 庫内の上部は乾燥しやすく、下部は過湿になるため、定期的に貯蔵箱の入れ替えを行う。

農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。

決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。

2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋等）を着用する。

3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。

4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。

5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。

6. クロルピクリン剤は、住宅地及び畜舎に隣接するほ場や、土壤が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。

7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。

8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬及び使用済みの空容器は適正に処分する。

9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。

10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

○調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。

○野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。

○調査結果や気象予報等の末尾の（+）,（-）は、発生量の増加、減少要因を示す。

○気象予報は、向こう1か月の長期予報。

○平年値は原則として過去10年間の平均値を使用。